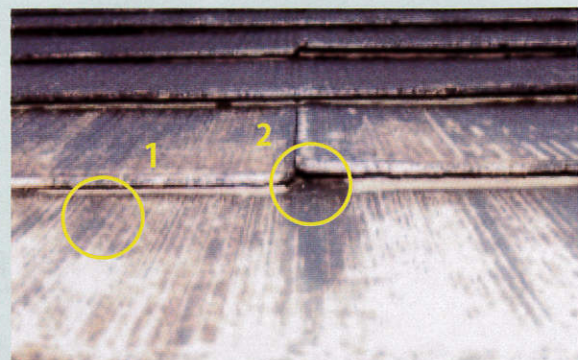


平板スレート屋根葺き工法と劣化現象



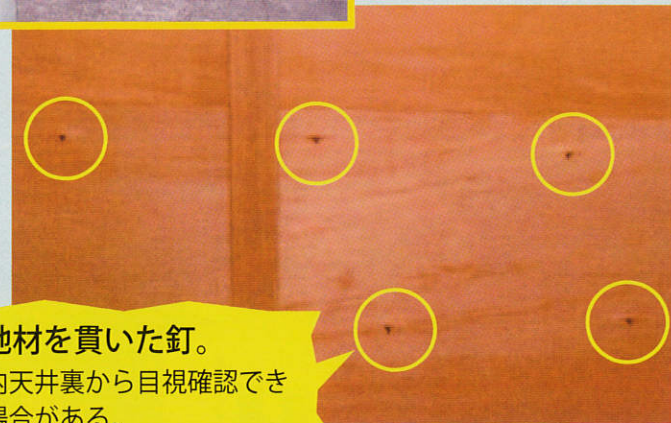
多く見られる
屋根材施工の
実態

屋根材を打ち付けた釘が
下地(コンパネ)野地板
を貫いて、家の天井裏に
突き抜けている。



屋根材を
手入れもせずに放っておくと…

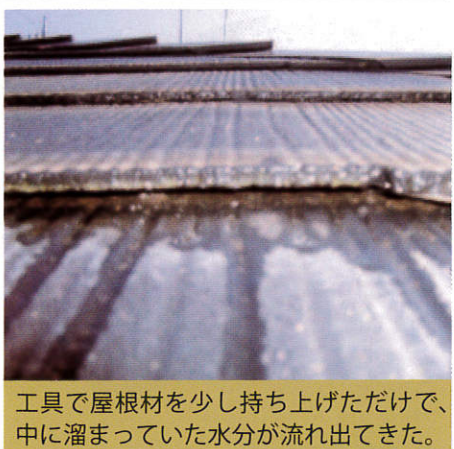
1. 屋根材の塗膜が劣化し防水性を失う。
2. 屋根材の反り劣化現象につながる場合がある。
3. 放っておくと破損の要因となる。



下地材を貫いた釘。
室内天井裏から目視確認でき
る場合がある。

塗装時の「縁切り」が無い場合による不具合

● 数年前に塗装をした事例



工具で屋根材を少し持ち上げただけで、
中に溜まっていた水分が流れ出てきた。

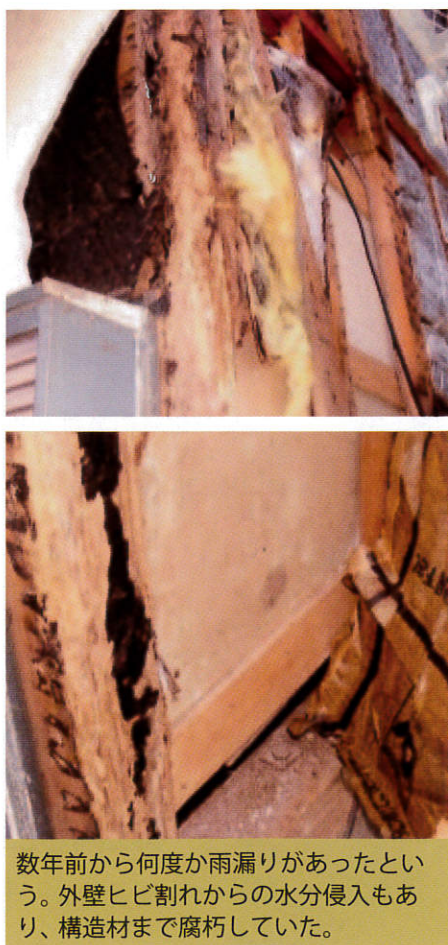
● 築年数19年の家
…塗装を2回行った



所々下地材が腐朽していた。
数年前から雨漏りが何度かあ
ったという。

この家は下地が完全に腐朽し、塗装によ
るリフォームができず、金属屋根にした。

● 構造材の腐朽



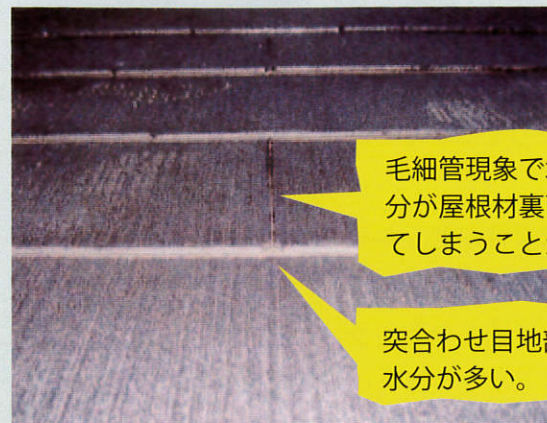
数年前から何度か雨漏りがあったとい
う。外壁ヒビ割れからの水分侵入もあり、
構造材まで腐朽していた。

● 2年前に塗装をした事例



雨上がりの翌日撮影。
下地が腐朽していた。

水分の侵入と排出のしくみ



毛細管現象で水平方向から水
分が屋根材裏面に吸い込まれ
てしまうことがある。

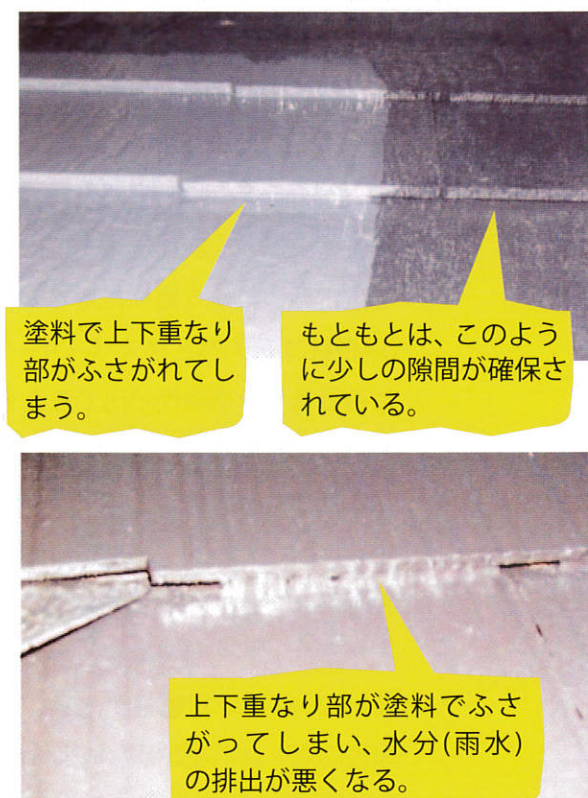
突合わせ目地部から侵入する
水分が多い。



もともとは、屋根材裏面に入
った水分(雨水)は排出でき
るようになっている。

● 塗装前、
雨上がり2時間後の
様子

縁切りとは…？ それはなぜ必要か？



塗料で上下重なり
部がふさがれてし
まう。

もともとは、このよ
うに少しの隙間が確保
されている。

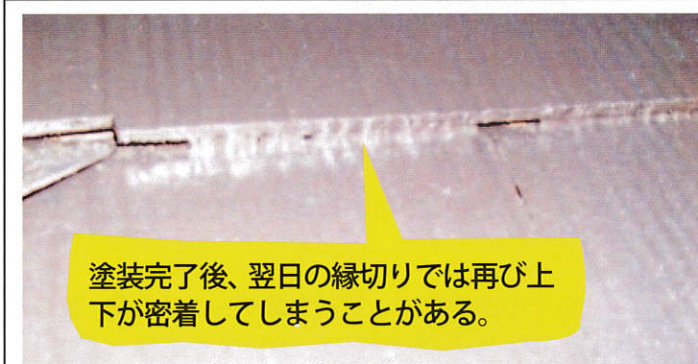
上下重なり部が塗料でふさ
がってしまい、水分(雨水)
の排出が悪くなる。

● 試験塗装の様子

従来の縁切り工法は…



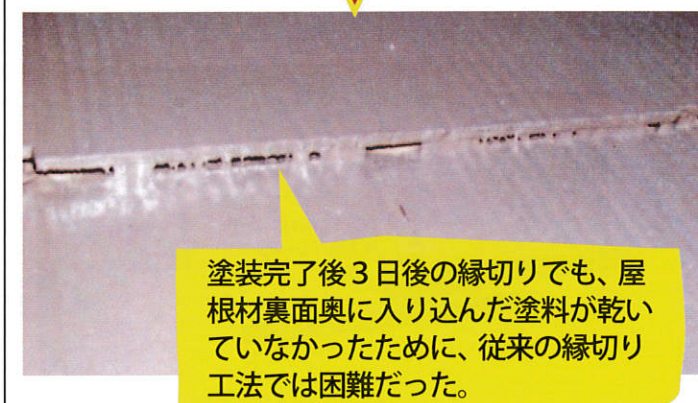
塗装完了後の縁切りでは塗
膜が剥がれてしまうこと
がある。



塗装完了後、翌日の縁切りでは再び上
下が密着してしまうことがある。

従来の縁切り作業では…

1. 皮スキ、ケレン棒、カッター等での縁切り工法では屋根材コグチ部が破損することが多かった。
2. 適度な通気性確保の有無確認が難点だった。
3. 工事仕様(使用塗料・工法)によっては再び屋根材上下重なり部が密着してしまった。
4. 仕上げた屋根面にキズや足跡をつけてしまった。



塗装完了後3日後の縁切りでも、屋
根材裏面奥に入り込んだ塗料が乾い
ていなかったために、従来の縁切り
工法では困難だった。